



できごと

全国公共図書館児童・青少年部門研究集会が平成24年11月29日(木)～30日(金)に2日間の日程で開催されました。

子どもの読書活動を推進する方策について研究討議するために隔年で開催されている集会で、今年は「一人ひとりに寄り添う児童サービス」を研究主題に、本を手にする機会に恵まれない子どもたちにどのようにして読書の機会を提供していくかについて、基調講演や事例発表、基調報告、研究討議を通して考えました。

会場の広島県情報プラザには、図書館職員を中心に、子どもの読書活動に携わっている人が全国各地から200人以上も参加して、熱気溢れる集会となりました。

(2ページ目にて、概要を紹介します。)

子どもの本に関する賞

子どもを読者として想定している本にも様々なものがあり、日々多くの本が刊行されています。その中から子どもに与える本を選ぶ際に、選択の候補として、子どもの本に関する賞を受賞した作品も検討してみたいでしょうか。

今号では、この1年間に発表された子どもの本に関する賞の受賞作をまとめました。

長く続いている伝統的な賞も数多くありますが、まだ10回にも満たないものもあります。

なかでも静岡書店大賞は昨年創設されたばかりの賞で、600人を超える県内の書店員の投票によって「小説部門」「児童書新作部門」「児童書ベストセラー部門」の3部門で大賞が選出されました。

(3ページ目にて、概要を紹介します。)

◇子ども図書研究室のテーマ展示 ただいま展示中です！

- ◆卒園・卒業と入園・入学の本
- ◆「ニッサン童話と絵本のグランプリ」と子どもの本に関する賞
- ◆新着図書も展示中です。

◇イベント情報 その1◇

◆グランシップ「えほんのひろば」 おはなしかいのごあんない

グランシップ県立図書館コーナー「えほんのひろば」では、下記の日程で定期的におはなしかいを開催しています。申込み不要、無料です。

「おはなしかい」

毎週木曜日：午前10時30分と午後3時から

第3日曜日：午前10時30分から

「0歳からのおはなしかい」

毎週火曜日：午前10時30分から

「おはなし劇場」(SPACによる朗読の会)

第4日曜日：午前10時30分から

*4月～5月23日(木)まで、木曜日午前と日曜日のおはなしかいはお休みします。

(おはなし劇場は、3月中止、4月は開催)

◇イベント情報 その2◇

◆静岡市美術館

「新美南吉生誕100年 ごんぎつねの世界」展

本展では南吉の生誕100年を記念し、生地、愛知県半田市の新美南吉記念館の所蔵品を中心に、直筆原稿・日記・書簡・書籍など116点と、棟方志功、かすや昌宏はじめ12名の作家90点の絵本原画を展示します。郷里の風土を背景に、悲哀の中にもユーモアと温かさに満ちた南吉童話の世界をお楽しみください。

また、会場では、絵本を読んでくつろげるスペースもあり、絵本の読み語りイベントなども開催します。ご家族そろってお越しください。

●日時 2013年2月23日(土)～

2013年3月31日(日)

10:00～19:00

(展示室入場は閉館の30分前まで)

●休館日 月曜日

●場所 静岡市美術館

●問合せ 静岡市美術館(主催)

〒420-0852 静岡市葵区紺

17-1 葵タワー3F

TEL 054-273-1515(代表)

www.shizubi.jp

全国公共図書館児童・青少年部門 研究集会報告

基調講演 子どものいのちを支える図書館へ (鹿児島国際大学短期大学部教授 種村エイ子氏)

種村先生はご自身のがん体験を機に、仕事の傍ら全国の小中学校を訪問してブックトークによる「いのちの授業」を実施されています。

ブックトークで紹介する本は『100万回生きたねこ』や『わすれられないおくりもの』などで、そこで伝えているのは、本の世界の深さや本を通じてのつながりであるということです。

昨今の子どもたちが直面している、いじめや災害による「避けられる死」を避けるために図書館ができることを考える必要があるのではないかと問題提起など、印象に残る講演でした。



事例発表1 「読書の森づくり」事業について (市立竹原書院図書館副館長 吉本由起子氏)

昼休みなど限られた時間以外は閉室していた小学校の図書館を、文部科学省の「学校支援地域本部事業」を活用して改善・改造している広島県竹原市の取り組みの発表でした。

この事業は、地域住民がボランティアやコーディネーターとして学校の支援活動に参加するのを推進するもので、竹原市でも地域コーディネーターが学校と学校支援ボランティアの間に立って調整しながら、学校支援ボランティアが改善・改造を実行したとのことでした。

改善・改造の具体的な内容としては、ドアを撤去する、古い本を除籍する、本を大きく「楽しい系」と「調べもの系」に分けて配置する、などが挙げられていました。



事例発表2 愛知県公立図書館長協議会ヤングアダルトサービス連絡会の活動について (愛知県図書館主査 東まゆ美氏)

担当者がいないか、いたとしても他の業務との兼務で1名という図書館が多いヤングアダルトサービスについて、県内の図書館で連絡会を

組織して協力しながらサービスの向上を図っている愛知県の取り組みの発表でした。

連絡会の活動としては、事例報告や情報交換会など研修の場を兼ねた総会の開催を始めとして、ブックレビューデータベースの構築、掲示板、リーフレット作成などを行ってきたほか、今後は中学や高校の学校図書館との連携を進める予定であるとのことでした。



事例発表3 矯正施設等との連携について (広島県立図書館主幹 正井さゆり氏)

最後は、児童自立支援施設や児童相談所などへのアウトリーチサービスを行っている広島県立図書館の取り組みの発表でした。

県の事業仕分けで要改善と判定された県立図書館の改革を行う中で児童・青少年サービスについても見直し、市町立図書館があまり行っていない矯正施設などとの連携を、ボランティアとの協働によって実施することにしたそうです。

サービス内容は、ボランティアによる読み聞かせや図書館によるブックトーク、貸出しなどで、ボランティアの活動に際しても図書館が施設と調整した上で行っているとのことでした。



2日目は、日本図書館協会児童青少年委員会の坂部委員長による基調報告と、発表された3事例に関する研究討議を行いました。

本研究集会の事例などについて詳しくお知りになりたい方は、当館までお尋ねください。

所蔵資料から

研究書

『全国公共図書館研究集会報告書 平成22年度』
日本図書館協会公共図書館部会事務局／編集
日本図書館協会公共図書館部会事務局
2011年7月
(閲覧室)

日本図書館協会公共図書館部会の全国研究集会の報告書。一昨年開催された前回の児童・青少年部門研究集会の議事録が掲載されている。

(児玉)

子どもの本に関する賞

イギリスの伝統ある児童文学の賞に、児童書を対象としたカーネギー賞と、絵本や挿絵を対象としたケイト・グリーンウェイ賞があります。

昨年は史上初めて、『A Monster Calls』（邦題『怪物はささやく』）が両賞をダブル受賞して話題になりました。

カーネギー賞は著者のパトリック・ネス（2年連続の受賞）に、ケイト・グリーンウェイ賞はイラストを描いたジム・ケイに贈られました。

所蔵資料から

文学



『怪物はささやく』

シヴォーン・ダウド／原案

パトリック・ネス／著

池田 真紀子／訳

ジム・ケイ／イラストレーション

あすなろ書房 2011年11月

重病の母を抱える少年コナー・オマリーのもとに怪物が現れた。怪物は、自分が3つの物語を語り終えたら、コナーが4つめの物語として「おまえの真実」を語るのだと言う。自らの真実と向き合いコナーが語った言葉とは。（児玉）

賞名	受賞作品（*印は当館所蔵）
コールデコット賞	*『ちがうねん』（ジョン・クラッセン／作 長谷川義史／訳 クレヨンハウス）
ケイト・グリーンウェイ賞	*『怪物はささやく』（シヴォーン・ダウド／原案 パトリック・ネス／著 池田真紀子／訳 ジム・ケイ／イラストレーション あすなろ書房）
カーネギー賞	
小川未明文学賞大賞	『パンプキン・ロード』（森島いずみ／作 狩野富貴子／絵 学研教育出版）*所蔵予定
けんぷち絵本の里大賞	*『いのちつぐ「みとりびと」1 恋ちゃんはじめの看取り』（國森康弘／写真・文 農山漁村文化協会）
講談社出版文化賞絵本賞	*『新幹線のたび』（コマヤスカン／作 講談社）
五山賞	『りゅうぐうのくろねこ』（イ・スジン／脚本・絵 童心社）
産経児童出版文化賞大賞	*『あさになったのでまどをあけますよ』（荒井良二／著 偕成社）
静岡書店大賞児童書新作部門	*『きょうのごはん』（加藤休ミ／作 偕成社）
同名作ロングセラー部門	*『100万回生きたねこ』（佐野洋子／作・絵 講談社）
小学館児童出版文化賞	*『くちびるに歌を』（中田永一／著 小学館）
坪田譲治文学賞	『きみはいい子』（中脇初枝／著 ポプラ社）
ニッサン 童話と絵本のグランプリ	*『ぐうたら道をはじめます』（たきしたえいこ／作 大西ひろみ／絵 BL出版）*改題 *『ぴっちとりた まよなかのサーカス』（ながおたくま／作 BL出版）
日本絵本賞大賞	*『もりのおくのおちゃかいへ』（みやこしあきこ／著 偕成社）
日本児童文学者協会賞	『ヒロシマ1～3』（那須正幹／作 長谷川知子／装画 ポプラ社）
日本児童文芸家協会賞	該当作なし
野間児童文芸賞	*『世界の果ての魔女学校』（石崎洋司／作 平澤朋子／絵 講談社）
ひろすけ童話賞	*『ちいさなともだち 星ねこさんのおはなし』（にしなさちこ／作・絵 のら書店）
福島正実記念SF童話賞大賞	該当作なし
福田清人賞	*『トキよ未来へはばたけ』（国松俊英／著 くもん出版）
椋鳩十児童文学賞	*『むこうがわ行きの切符』（小浜ユリ／作 岩清水さやか／絵 ポプラ社）

新着資料から

知識

『みんなに知らせる
小学生のための文章レッスン』
宮川 健郎／作
藤原 ヒロコ／絵
玉川大学出版部
2012年11月



住み慣れた仙台から東京に引っ越してきた小学5年生の清水耕介の3か月を描いた物語。

もらった手紙への返事や自己紹介文、転居通知、フリーマーケットのちらしなどを書いて思いを伝えることによって、クラスメートや旧友とのつながりを深めていく様子を、あくまでも物語として無理なく書いている。説明が必要な部分はコラムによって補っている。

シリーズ3巻本の1冊で、他に『なんかヘンだを手紙で伝える』と『ラブレターを書こう』がある。【小学校中学年から】 (児玉)

文学

『おばっちのブイサイン』
後藤 みわこ／著
よこやま ようへい／絵
くもん出版
2012年11月



おばっちとは、ママっち（母）のお姉さんのこと。小学4年のメイは、夏休み、肝臓病で入院中のおばのもとへ母と一緒に通う。いつもにこにこしているおばと違って、同室の横井さんは、私はどうせ死ぬのだからと、わがままばかり言っている。不満をぶつけられている横井さんの娘さんと同じように、不満を口にしないおばを見る母もつらいのだと、メイは理解していく。それでもなお、妹であるママっちを思いやるおばっちの「ブイサイン」に、すがすがしさを感じる作品。【小学校中学年から】 (鈴木由)

文学

『ヘリオット先生と動物たちの
8つの物語』

ジェイムズ・ヘリオット／作
杉田 比呂美／絵
村上 由見子／訳
集英社
2012年11月



イギリスの獣医、ヘリオット先生は、農家を訪ねては動物を往診して忙しい日々を過ごしている。そんなヘリオット先生と地元の素朴な人々との心の交流や、人と動物が共に寄り添って生きる姿が、ほのぼのとしたエピソード交えながら描かれており、世界中でベストセラーになった。本書はヘリオット先生が若い読者に向けて書いた作品をまとめた一冊で、読みやすい構成になっている。方言を使った翻訳と温かみのある挿し絵も、独特の味わいとぬくもりを感じさせる。【小学校高学年から】 (島出)

絵本

『ブルムカの日記』

イヴォナ・
フミエレフスカ／作
田村 和子・松方 路子／訳
石風社
2012年11月



ユダヤ系ポーランド人のコルチャック先生は、母国ワルシャワで孤児院を開く。この絵本は、その孤児院に暮らすブルムカという少女によって書かれた日記という体裁をとって描かれている。フィクションでありながら、少女の友達の生活や先生の誠実な様子が、各ページから生き生きと伝わってくる。著者は戦争の悲惨さに直接触れてはいないが、忘れないためのメッセージとして、この作品が伝えることは重い。多くの国で出版され、国際的な児童文学賞も受賞している。【小学校中学年から】 (小松)